

第3回誠愛院内勉強会

日時： 平成20年11月18日 PM17:30~18:30

場所： 誠愛リハビリテーション病院 研修室

講師： 誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部
副院長 林 克樹

テーマ：「脳卒中のリハビリテーション」

抄録

1.リハビリテーション部の紹介

当院は昭和63年に誠愛病院として開設され平成5年に誠愛リハビリテーション病院に改称され、脳卒中や脳性麻痺を中心とした中枢神経疾患のリハビリテーションに力を注いできました。また、リハビリテーションに携わるセラピストも9名から現在の159名へと増加し、それに伴う診療点数の増加とともに患者さんのリハビリテーションに携わる時間も格段に増えてきています。

リハビリテーション部は診療、教育、研究を中軸に基本方針を掲げ、学会発表や執筆活動にも取り組んでいます。

2.リハビリテーションの歴史と神経リハビリテーション

リハビリテーションの歴史は第一次世界大戦や第二次世界大戦のころからポリオや脊髄損傷、戦傷による障害者の整形外科的なリハビリテーションから始まり日本においても同様整形外科的なリハビリテーションが主流で発展してきました。しかし近年脳卒中や加齢に伴う脳機能の低下、さらに脳性麻痺などの患者に、脳の機能回復を考えたリハビリテーション(神経リハビリテーション)が必要となってきました。神経リハビリテーションは1940年第二次世界大戦ころから脳損傷患者のリハビリが始まりますが麻痺を Weakness として考えられ、これまでの整形外科的な筋肉トレーニングや関節可動域訓練、装具療法が中心でした。1950年ころより神経学的・神経生理学的な諸法則を運動治療学の実際の場に応用しようとしたリハビリテーションが盛んになり Bobath アプローチもその一人でした。

近年になり Randolph, J. Nudo など次々と中枢神経系の可塑性の研究が発表され脳損傷患者のリハビリテーションの考え方に大きな変化をもたらしつつあります。

当院では脳卒中や脳性麻痺のリハビリに神経生理学的研究と臨床場面で実績と60数年の歴史を持つ Bobath アプローチを中心に治療を実践し、患者さんの機能回復はもちろん、様々な日常生活動作の拡大、社会参加に向けた実際の当院におけるリハビリテーションを紹介します。